



Game Boyの分解

この詳細ながらも面白い分解を通じて、任天堂のオリジナルGame Boyの内側を見てみましょう。

作成者: Craig Lloyd



はじめに

任天堂のGame Boyは1989年に発売されました。最初に売れた携帯用ゲームコンソールではありませんでしたが、それは携帯用ゲームというカテゴリーを普及させ、このゲーム業界を牽引しました。

ツール:

- #1 プラスネジ用ドライバー (1)
- トライウイング Y1 ドライバー (1)
- iFixit開口ツール (1)

手順 1 — Game Boyの分解



- 任天堂Game Boyは、1989年4月21日に日本で発売されました。続いて3ヶ月後の7月31日に、北米で販売開始、欧州は1年以上遅れて発売されました。これが携帯型ゲーム革命の始まりと言えます。
- 技術仕様です。
 - 4.19 MHz 8ビットプロセッサ
 - RAM 8 KB
 - 2.6インチ 160x144 LCDディスプレイ

手順 2



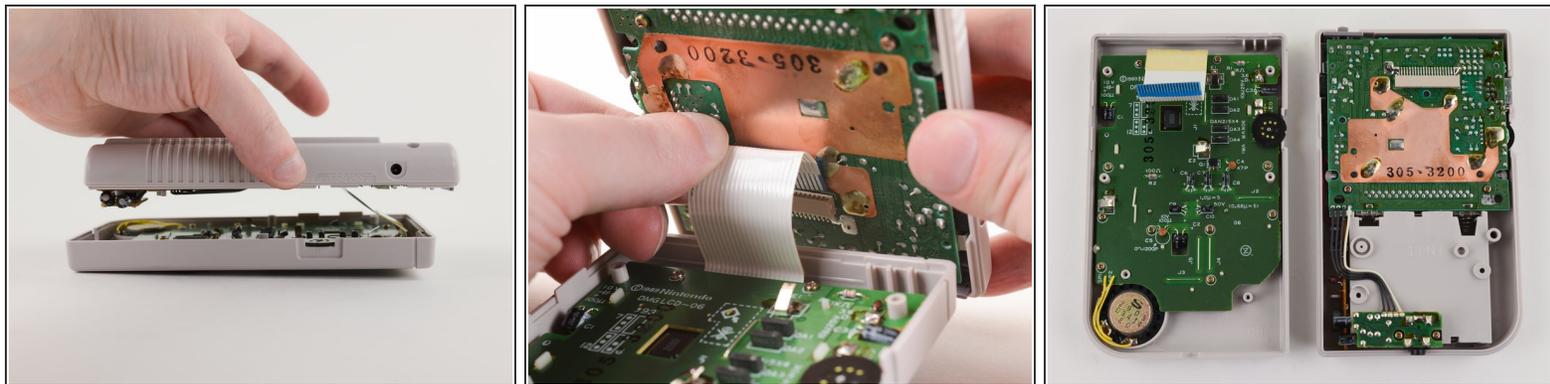
- モデル番号DMG-01(Dot Matrix Gameを表す)が表記されたGame Boyは4本の単三乾電池もしくはAC電源アダプターがあれば電源が入ります。しかし後者のアダプターはゴミの山のどこかに姿を消してしまいました。
- ⓘ 同じモデル番号を保ったまま、Game Boyはこの後何年間にも渡って、若干のアップデートを繰り返しました。
- 3番目の画像が気になった方へ、この800番(日本では0120)でこのレトロゲームについて問い合わせをしたい場合に使えるフリーダイヤル番号です。

手順 3



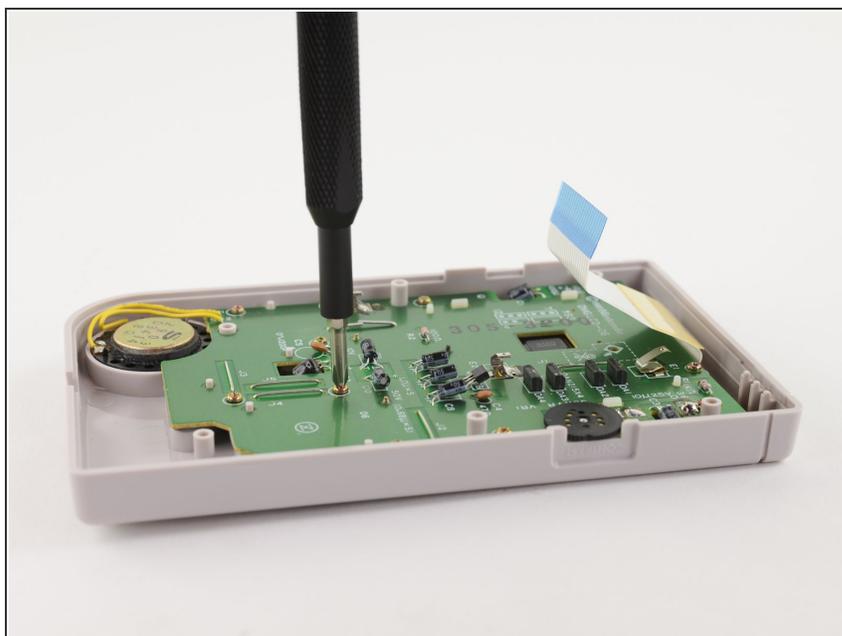
- ケースは6本のトライポイントY1ネジで固定されています。1989年にも遡ると、任天堂は、DIY修繕ファンにとっては容易い標準のネジを使用していたのです。幸いにも、iFixitの[Mako Driver Kit](#)があれば、必要なツールは全て揃っています。
- 任天堂は、親切にもドライバーが完璧にバッテリーコンパートメントにフィットするように凹みを設けてくれました。

手順 4



- アウターケースの半分を分離するべく慎重に持ち上げると、リボンケーブルの毘が出てきました！幸いなことに、このリボンケーブルは最近のデバイスに搭載されたケーブルに比べると、ダメージには強いようです。
- しっかりとケーブルを掴んで引っ張ると、完全にフロントとバックケースを分離できます。

手順 5



- 内部を開口できれば、ここから先にあるのは、全て標準型の#1プラスネジです。ディスプレイの回路板は10本のネジで固定されています。

手順 10



- 記憶を辿るこの分解の旅を楽しんでいただけましたか。
- さて、これにして失礼させていただきます。これから私たちは、この Game Boyを再組み立てて、Super Mario Land 2に興じます。